

第1回三保作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年7月1日 18時～19時30分

開催場所: 三保交流センター 集会室

参加者

グループ	A	B
参加者数	4名	5名

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- アイスブレイクとして、各グループの参加者は互いの名前や住んでいる地域の魅力を共有した。

グループワーク①

- はじめに各参加者は各地域の自慢や強みを花型の付箋に書き出し、共有した。これには地域の伝統行事や、住民同士の密な結びつき、豊かな自然環境などが挙げられた。
- 議論の中では、交流施設(文化センター等)の現状、農業における専業農家の減少や後継者不足といった具体的な課題が指摘されました。また、水田管理や草刈りといった地域の維持に関わる負担についても話し合われた。
- 参加者は、防犯パトロールや夏休みの交流会、ホタルに関する活動など、盆踊り等の地域で継続されている活動が地域の強みであることを改めて認識した。
- 他グループの作成した付箋の内容を確認し、他地域の事例や活動について学び合う時間を設けた。この交流を通じて、多様な視点から地域の可能性を見出した。

グループワーク②

- 参加者は「どのような地域であれば住みやすいか」という視点で、今後の具体的な要望として、交通手段(コミュニティバスのルート改善)、運動ができる公園の設置、地域での安全確保、継続的な地域活動の支援が挙げられた。また、地域活動にお

ける資金負担の問題も指摘され、活動を持続させるための仕組みづくりの重要性が語られた。

- 最後に、障害のある方、高齢者、単身世帯、そして新しい住民を含め、すべての人が暮らしやすい地域を目指すための話し合いが行われた。特に、若年層の定住には就業先の確保が不可欠であることや、浄化槽などのインフラ整備の必要性が課題として挙げられ、多様なニーズに応じた環境整備の重要性が強調された。
- 地域全体で見守り合い、住民同士が自然に声を掛け合える「優しい街」を作る重要性について議論した。かつては学校から帰ってきた子供たちが地域の大人に見守られながら遊ぶ横の繋がりがあったが、現代では近隣住民との関係性が希薄になっているという課題が共有され、参加者は、子供から高齢者までが安心してお互いに声を掛け合えるような、温かみのあるコミュニティ形成を目指すとした。
- 参加者は、地域での挨拶や交流を促進する一方で、防犯上の懸念についても議論した。地域で知らない人に声をかける際、子供が変な人に話しかけられたと誤解しないかといった安全面での難しさが挙げられた。それでも、地域で安心・安全に暮らすためには、住民同士が誰であるかを把握し、お互いに気遣い合える関係を築く必要があるという意見で一致した。

発表

- 地域での生活環境改善として、排水設備の整備といったハード面での課題を挙げた。一方で、学校を中心としたホタル飼育やサツマイモの栽培といった地域活動の継続・発展させることで住民のつながりを強化するというソフト面でも意見が出た。特に、横のつながりを強化し、独居高齢者の孤立防止、若い家族が安心して子育てができる環境を整えることにより、地域全体の活性化に繋がるとの意見が示された。
- 高齢者が多い地域特性を踏まえ、緊急時の対応体制の整備や、100円ショップやコインランドリーのような生活に密着した店舗についてもう少し近くにあればという意見が出た。また、障がい者や、外国人も含めた多様な人々との連携の重要性を指摘。さらに、空き家が増加しており、どうにか有効活用できないかという意見が出た。また、若い世代が戻ってきて友達同士で楽しく過ごせる街を目指したいと今後の地域の方向性についても提案された。

次回会議の案内

次回の会議に向けて、参加者が予定を合わせやすい時間帯として、今回と同様の午後6時開始とすることで全会一致した。